

群 教 セ	G14 - 01
	平 17.230集

# コミュニケーション能力を 向上させるための指導の工夫

## － 情報通信ネットワークなどを活用した学校間交流を通して －

特別研修員 須藤 勝洋 (藤岡市立藤岡第一小学校)

本研究は、総合的な学習の時間において情報通信ネットワークなどを活用し学校間交流を行う中で、児童のコミュニケーション能力の向上を目指したものである。相手校に自分たちの活動内容を理解してもらうため、小グループでの練り合い活動を行ったり、クラス全体で相互評価をしたりする活動を取り入れた。そして、これらの活動が「伝え合う力」や「多面的な見方」を身に付けさせるのに有効であることを明らかにした。

**キーワード** 【総合的な学習 - 小 コミュニケーション能力 学校間交流 ネットワーク】

### 主題設定の理由

近年、急速に情報化が進み情報が氾濫している中で、学校教育において次代を担う子ども達に情報活用能力を育成する必要があると考える。

そこで、情報活用能力について本校児童の実態を観察したところ、インターネットを活用しWeb上から情報を収集し選択することはできるが、収集した情報に対して判断や理解が不十分であることが分かった。そのため、Web上で検索したことをそのまま鵜呑みにしてしまうことも多い。また、相手に分かりやすく伝えることや、正確に自分の思いを相手に伝えることができていないため、自己表現したりする場合においても、独りよがりであったり、言葉が不足したりして、トラブルになる場合もあった。

本研究では、こうした実態を受け総合的な学習の時間において、情報機器を効果的に活用し、お互いの意思の疎通が図れるような、「コミュニケーション能力」の向上に取り組むものである。

本研究の「コミュニケーション能力」は、「伝え合う力」と「多面的な見方」として考える。

伝え合う力とは、相手からの情報を正確に受け取り、自分の考えを分かりやすく正確に情報を伝えられる力のこととした。

多面的な見方とは、個人の持つ情報を集団で話し合うことにより、自己中心的な考えだけではなく相手の意見を取り入れ多くの視点から考えられることである。また相手から送られてきた情報を、正確に理解することとした。

こうしたねらいをもとに意欲を持って活動に取り組みさせるため、学校間の交流活動を取り入れた。

学校間交流を通じて、情報機器や情報通信ネットワークを活用し、交流相手を意識した双方向性の良さに気付いたり、練り合い活動が重要であることに気付いたりすることをねらいの中に位置づけることとした。グループ内での話し合い活動が活発になり、それに伴い文章の練り合い活動で相手に伝わるような工夫がなされたりできると考えた。さらに、クラス内で相互評価活動を取り入れて多面的な見方を身に付けることにより、コミュニケーション能力が向上するであろうと考え、本主題を設定した。

### 研究のねらい

コミュニケーション能力を向上させるために、情報機器や情報通信ネットワークを活用した学校間交流を行い、グループ内での練り合い活動をしたりクラス内で相互評価をさせたりすることの有効性を総合的な学習の時間において検証する。

### 研究の見通し

総合的な学習の時間の中で他校と情報交換ができるように情報通信ネットワークなど(チャット・電子掲示板・電子メール・ビデオレター)を活用した学校間交流をすれば、児童のコミュニケーション能力が向上するであろう。

## 研究の内容

### 1 基本的な考え方

コミュニケーション能力を向上させるために、以下のように考えた。

#### (1) 伝え合う力を向上させる工夫

「情報を交換すること」の良さを理解させるとともに、一度も会ったこともない相手に対して、お互いが理解し合えるような双方向で情報を交換できる場を提供する。そして、日常生活の中で「自分が情報を受け取ってうれしい」と感じることや、3観点（大きな声を出す、正確に分かりやすく、相手の顔を見る）を明確にした「話し言葉と書き言葉」の伝わり方の違いに着目させることで分かりやすく正確に情報を発信することができる。

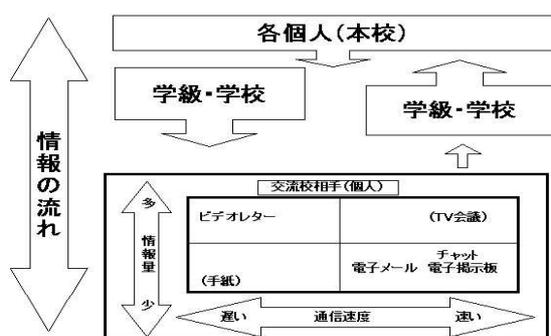
#### (2) 多面的な見方を育むための工夫

交流活動や3観点（大きな声を出す、正確に分かりやすく、相手の顔を見る）を明確にしたクラス内での話し合いや文章の練り合い活動とおして相手の意見の良さに気づいたり認め合ったりすることで、多様な意見に触れお互いを高めることができる。また、相手校から送られてきた質問の回答を考えたり、相手校に質問をしたりするために正確な理解が必要となる。そのためにグループ内の話し合い活動や練り合い活動を行う。

### 2 交流のための情報の流れ・情報量と通信速度に関する考え方

コミュニケーション能力の向上を図るために、目的や、内容に応じた情報通信ネットワークの活用を図った。情報量が多くても通信速度が遅いものや、情報量は少なくても通信速度が速いものがあり、リアルタイムでの双方向性を考慮し、必要に応じて使用することとした（図1）。

図1 情報の流れ・情報量と通信速度



注 ( )内は本研究で使用しない機器

### 3 情報通信ネットワークなどの活用

#### (1) チャットの活用

通信速度は速く情報が少ないが、多人数での会話をするような使い方である。そうしたことから即座に自分の意見が児童に伝わり、それに対してすぐに返事が返ってくるのでクラスやグループ内での活動で活用する。そうすれば普段発言が少ない児童でも、コンピュータの画面上に文字入力をさせることで、自分の意見を知ってもらうことができたり、自分の発言について意見をもらうことができる。そのことで、多様な意見に触れることができる。

#### (2) 電子掲示板の活用

通信速度は速くチャットより情報が多く、伝言板や掲示板のような使い方である。従って、相手校からの様々な質問や行事についてのコメントを紹介し合う活動に活用する。児童は届いた質問を分担しながら、自分自身の課題としてとらえ、学習活動ができる。回答を見つけるために調べ学習を行ったり、アンケート調査を実施したりする。そうした中で意見カードに回答を記入し、更にそれをグループ内で話し合ったり練り合ったりすることで、相手に伝わりやすい文章に推敲していく。

#### (3) 電子メールの活用

通信速度はそれほど速くないが、相手の都合は問わないことや静止画や動画が送れる。従って、個人の自己紹介カードを一括して送る。児童は相手から送られてきた静止画や自己紹介カード、自分が作成した自己紹介カードを見ることで、相手を意識したり、相手の良さに気付いたりする。また、グループ内で練り合いながら作成することにより、相手に伝わりやすくなる。

#### (4) ビデオレターの活用

通信速度は遅いが情報量が多く、繰り返し練習してから撮影できる。児童は電子掲示板や電子メールで、届いた質問を分担しながら、自分自身の課題としてとらえ、回答を見つけるために調べ学習を行ったり、アンケート調査を実施したりする。また、その中で意見カードや視聴カードを活用することにより、自己評価はもちろん、グループ内の練り合い活動やクラス全体で相互評価を行わせる事ができる。また、その評価により課題を持って練習して、相手にとって分かりやすいビデオレターが撮影できる。

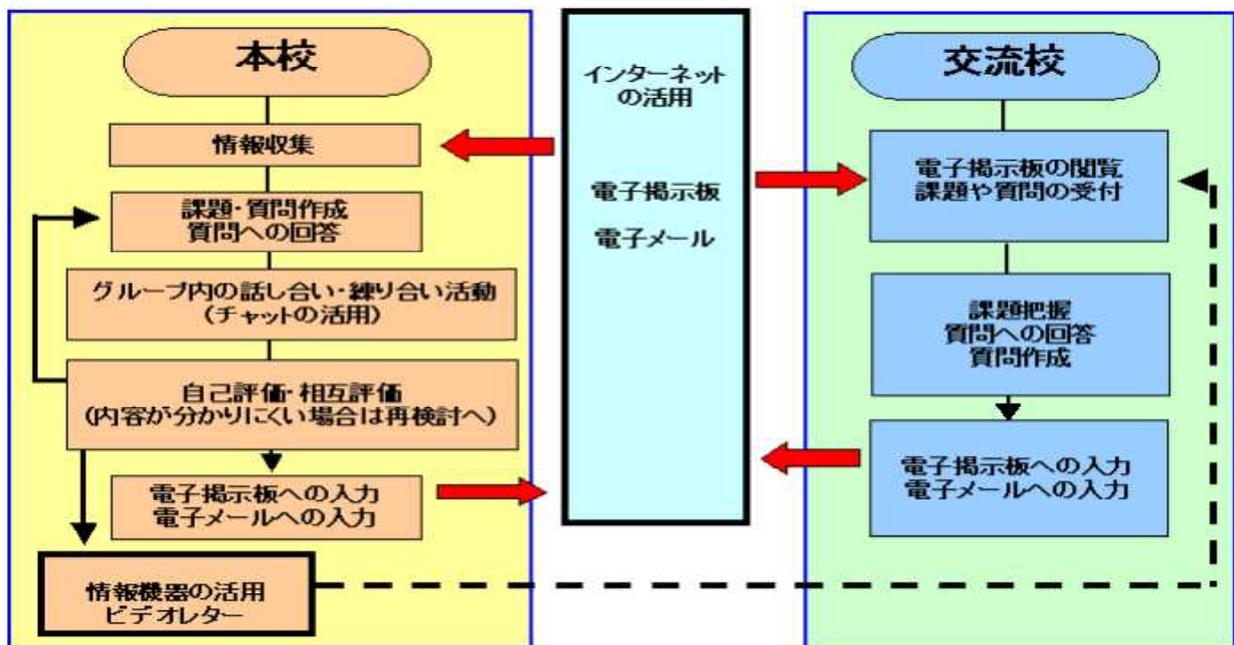
#### 4 学校間交流について

相手校からの情報を適切に処理し、グループ内での練り合い活動を通じて受信・発信を繰り返す中で、意欲的に活動を行い、コミュニケーション能力の向上をねらいとするものである。そして情報機器や情報通信ネットワークを手だてとして活用することでコミュニケーション能力の向上を図ることができる（図2）。

チャット、電子掲示板、電子メール、ビデオレター等を通じて、他校と情報交換することにより、双方向の利点を生かし、考えを深めさせる手だてとする。

また、相手の立場に立ったものの見方や考え方

図2 交流活動のための仕組み図



#### 実践の結果と考察

##### 1 授業実践計画

対象 藤岡市立藤岡第一小学校 第4学年

単元名 総合的な学習の時間 「交流学习をしよう」-情報通信ネットワークを活用して-

単元の目標 情報機器や情報通信ネットワークを活用した学校間交流や交流のための話し合いをする事で、コミュニケーション能力を高めることができる。

単元計画20時間：本時は「追究する」の(10/12)

過程	時間	主な学習活動	学習活動への支援	評価項目(方法)
つがむ	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローマ字入力になれる。(ソフトを活用)</li> <li>チャットを活用し自分の意見を入力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲーム感覚でキーボード操作が行えるソフトを活用し、トレースさせることにより、入りに慣れさせる。</li> <li>「山と海」「ご飯とパン」等児童が日常扱っているものを題材にし賛成、反対の意見を入力させお互いの理解を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を明確化させるためにチャットを活用し、お互いに意見交換を行う中で相手の良さに気付いているか。(観察)</li> </ul>

<p>追究する</p>	<p>12 1 6 7 8 9  本時 10 11 12</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子掲示板・電子メール等を活用し交流について見通しを持つ。</li> <li>・電子掲示板等を活用し自分の意見を深める。</li> <li>・G-TaKを見て発表の仕方を学ぶ。</li> <li>・ビデオレター作成のための、リハーサルや撮影をする。</li> </ul> <p><b>事前アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影したものを視聴し、意見交換を行う。</li> </ul> <p><b>事後アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本番用のビデオレター作りを通じて交流相手の質問に答えることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ単位で交流校とやりとりができるように、自己紹介等の資料や意見カードを用いて、交流の準備をさせる。</li> <li>・相手校からの質問に対してグループ内で練り合い活動が深まるように、意見カードを活用する。</li> <li>・G-TaKの発表の仕方のコンテンツを活用して発表の手順を示す。</li> <li>・司会者を中心にリハーサルを行わせ、準備が整ったグループから、順次発表に取りかからせる。</li> <li>・撮影が終わったグループには、撮影終了後の感想を書かせる。</li> <li>・(T1)はリハーサルの支援を行い、(T2)はビデオ撮影を行う。</li> <li>・ビデオ視聴を通じて、良いところや直した方が良いところを、視聴カードに記入させる。</li> <li>・ビデオを視聴させ、視聴カードを交換し合い、各グループで本番撮影に向け話し合わせる。</li> <li>・相互評価したことを踏まえてリハーサルを行わせる。</li> <li>・ビデオレター撮影ができるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介の文章を考えさせ、練り合い活動を通じて推敲し相手に正しく伝わるかどうか話し合っているか。(意見カード)</li> <li>・意見カードを活用し相手校からの質問に対して正しく回答を行っているか。(意見カード)</li> <li>・リハーサルについては、意見カードを活用し、発表原稿の元として扱うと共に、多面的な見方をもとにした練り合い活動を通じて、より相手に分かりやすい表現になっているか。(意見カード・観察)</li> <li>・ビデオ視聴において、視聴カードや付箋紙を活用し、3観点で自己評価や相互評価をさせ、更に分かりやすい表現方法を見つけているか。(視聴カード・付箋紙)</li> </ul>
<p>まとめる</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子掲示板などにグループの意見をまとめ入力させる。</li> <li>・他の場面で実践する意欲を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子掲示板などに、分かったことや理解が深まったことなどを中心に各グループごとにまとめ、入力をさせる。</li> <li>・本単元で学んだことが家庭や学校で、実践できるよう配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見カードを活用し、ビデオレターの感想を書かせ、班内で練り合い活動をさせ推敲させて、電子掲示板に入力できているか。(意見カード・感想)</li> </ul>

図3 リハーサル



(1) リハーサル

意見カードを使って話し合ったり練りあったりしたことをもとに、発表原稿を作成し、班内でリハーサルを行う(図3)。

(2) ビデオ視聴

ビデオを見ることで自己評価をさせる(図4)。

(3) 相互評価

ビデオをお互いが見合い相互評価する中で、他者からの意見に触れることで、多面的な見方を高めることができるような場とする(図5)。

図4 ビデオ視聴



図5 ビデオ視聴後の相互評価



## 2 授業実践

日時 11月18日(金) 4・5校時(14:00~15:00) 体育館二階卓球室

本時のねらい

ビデオを視聴し、クラス全体で相互の意見交換をすることができる。

準備

デジタルビデオカメラ、プロジェクタ、スクリーン、意見カード、視聴カード、付箋紙、ストップウォッチ、各班の番号札

展開

学 習 活 動	時間	学習活動への支援	観点評価項目(方法)
本時(8時) ・撮影したビデオを視聴する。	30	・撮影した様子を見せ観点別に相互評価をさせる。また、良いところや直した方がいいところを視聴カードや付箋紙に記入させる。付箋紙を一覧にできるよう模造紙に貼らせる。	思 視聴カードや付箋紙を生かし話し合うことができている。 (観察法・視聴カード)
・班毎に視聴カードや付箋紙を見て、本番の撮影に必要な事柄をリストアップし話し合う。	30	・視聴カードや付箋紙に記入してある事を確認させ、相手に正しく伝えるにはどこを直すのかを明確にさせる。 ・班長に司会進行役をさせながら話し合いを進めさせる。	

## 3 結果と考察

### (1) 伝え合う力について

相手を意識して伝え合うには、相手校からの情報を正確に受け取り、それを自己の課題として受け止め真剣に答えを探そうとする事が大切である。そのためには、相手を常に意識した話し合いや練り合い活動が必要となる。相手に情報を正確に伝えるための手だてとして、視聴カードや付箋紙を生かした話し合いができていた。

### (2) 多面的な見方について

相手がいることを常に意識させることにより、自分とは意見が違っていても、話し合いや練り合い活動等により、誰もが分かるように思考したり、文章を推敲したりするなど、自分の考えだけでなく他の児童の考えを積極的に取り入れたりするようになってきている。また、相手校からの返信により、自分勝手な考え方は通用しないということを知るきっかけとなり、さらに活動が深まることになった。

### (3) 情報通信機器の活用について

本研究では、チャット、電子掲示板、電子メール、ビデオレター等を通じて、他校と情報交換することによって、双方向の利点を生かし、考えを深めさせ、広がりのある思考を促す手だての一つとする事ができた。そのためには、情報を目的に応じて使い分けることや、個人宛にきた質問事項などを、一人一人が自己の課題として真剣に受け止め、活動が常に継続される状態を保つことが出

来たからに他ならない。特に、ビデオレターの作成については、常に相手を意識すると言うことを繰り返し指導する中で、何度もリハーサルを行い、グループ内で意見がまとまるまで何度も話し合いを行わせた。その結果、相手校からは、電子掲示板でビデオレターについての感想が多く入力され、交流が深まることを実感できた。

### (4) 学校間交流について

学校間交流において情報通信ネットワークなどを活用したところ、児童は自分が投げかけた質問に対して、すぐに答えが返ってくることを喜んでいった。それが次の質問を行う意欲の向上になった。特に自己紹介後は、自分を知って欲しいという強い願いや思いが高まると共に、相手のことも積極的に聞こうとする意欲も見られた。その結果、交流が活発に行われるようになり、一週間に何度も電子掲示板でやり取りを繰り返すこともあった。こうした条件が整うことでコミュニケーション能力の向上に役立ったと考える。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

コミュニケーション能力を向上させるために交流授業を行う中で、初期の段階では相手校から同じ質問が何度も繰り返し届いたり、補足を促す質問が届いたりした。そのため、回答したことが正確でなかったり、相手に伝わりにくかったりした

ことが分かった。そこで、話し合いや練り合い活動の回数を増やしたり、クラス全体で一つのテーマについて話し合うことを行い、相互評価させる中でより伝わりやすい内容に変更された。そうした授業を繰り返すことで、相手校からの質問に対して各自がより強く相手を意識するようになり、相手に伝わりやすくするためにどのようにすべきか思考する様子が見られた。また、その場の状況に合わせた発言が見られるようになった。さらに、練り合い活動を行うなかで、今まで気が付かなかったことに気が付いたり、他者の意見に積極的に耳を傾けたりするようになってきた。

「伝え合う力」については、繰り返し話し合いや練り合い活動を行う中で、相手を意識して情報発信することを念頭に作業を進めることができた。

「多面的な見方」については、話し合いや練り合い活動が活発になる中で、他の児童からの多様な意見に触れ、理解が深まるとともに今まで知らなかったことを知る機会も増えた。さらに、相手校からの情報についても正しく理解し、自分の言葉として理解している児童が多くなった。

以上のことから、コミュニケーション能力を向上させることが出来た。

## 2 今後の課題

交流授業をすることについて以下の項目のような課題が挙げられる。

電子掲示板にかかれる内容の吟味や、それを調べるための準備作業に費やす時間の確保が必要である。また、電子掲示板の利用者を限定するためのパスワードを設定して、不特定多数が利用できないよう配慮が必要である。

ネットワークに関する知識や、ソフトウェアに関する知識の向上させるとともに、環境整備として、各地域や各学校のコンピュータ・ソフトウェア導入が必要である。特に、情報量も多くリアルタイムで行えるTV会議システムが導入されれば、学校間交流を活発な活動にするために有効な手段と考えられる。

交流相手を見付け、密に連絡を取って事前調整や打ち合わせが必要となるが、それにかかる時間の確保が難しい。

総合的な学習の時間の年間計画における情報教育の配当時間の見直しが必要である。

## < 参考・引用文献 >

・群馬県教育研究所連盟 『実践的研究の進め方』 東洋館出版社(2001)

・竹内一郎 『人は見た目が9割』 新潮新書(2005)

・山田ズーニー 『大人の小論文教室』 河出書房新社(2006)

( 担当指導主事 根岸 卓 )